

特別賞

原点回帰した考え方

赤坂中学校 徳山 儀亮

「なぜ生物を絶滅させてはいけなのだろうか。」「なぜ命は大事なのだろうか。」今までこの様に教えられてきたが、そうあるべき理由は何だろうか。この問いは生き物の将来を考える上で非常に重要なものだろう。私の場合、これを自分達に置き換えて考えてみた。「もし人間が絶滅の危機にあつたら、一体どうするか」と。私はその元凶を悪ととらえるだろう。そして必ずどうにかして生き長らえようとするはずだ。人間に限らず、生き延びようとするのは生物の本質だ。今日生物多様性の中で問われているものは、異なつた生物の同じ本質をとらえられるかどうかだと思う。

古くから、人間が進化していく過程では環境の変化が必要であつた。狩りをして動物の命を頂き、田を作るために木を焼き払つた。現代に近付くにつれ、地球にもともとあつた資源や、大量の生物に手を出し、ついにはそれらを枯渇させるにいたつた。

数千年前の人類と、現代の人類とでは、大きく相違する点がある。それは、自然を尊んでいるか、ということだ。古代の人類は自然を自分達より優れていると扱つたのに対し、現代はあたかもそれが「人間によって創られている」

かのようにおごっている。この考えこそ全ての根源であるとは私は考える。今日の重大な環境問題を全て解決させるには、まずこの考え方自体を改めなければならない。人類は進化したが、最も大切なものは無くしてしまつたという事だ。事態は非常に深刻である。

自然界の中で、種が絶滅する時の例をひとつ挙げたいと思う。仮に蜂が絶滅してしまつたとする。すると、蜂を介して受粉していた虫媒花も絶滅し、その花の蜜を吸つていた蝶も減少してしまう。生物一体一体で何か力を持つわけではない。生物相互の関係が重要なのだ。

ここで、なぜ生物を滅ぼしてはいけなのか、再びこの問いに戻る。その理由は、私たちも元は「自然」の中から生み出されたからだと思う。他の生物も私達の「仲間」に他ならないから、自然と助けたいと思えるはずだ。その関係が崩れているのは、やはりおごりが原因だ。

私は自然が大好きだ。小さいころ山空の綺麗な星々、広大な緑を見て、その端麗さを感じた。生命を息吹かせる、同じ地球の仲間達の素晴らしさを真に理解すれば、誰しも自然を守りたくなるものではないだろうか。

私達人間は他の人間を殺めないと生きていけない。けれども私達に生き物を必要以上に殺す権利など、あるはずが無い。人類がいくら進化しようとも、自分達だけでは生きてはいけないということを忘れてはいけない。